

令和5年度 第1回 学長選考会議（定例）

開催日時 令和5年6月16日（金）15:20～16:00
 場所 百周年中村記念館1F多目的会議室
 出席者 鵜飼委員、小笠原委員、高原委員、前田委員（五十音順）、芹川委員、坂本委員、水井委員
 会議成立 構成員8名のところ、7名の出席により定足数を満たしていることが確認された。
 陪席者 近藤監事、林田監事

議題	NO	議題	結果	主な意見
議題1	(審議事項)	議長の職務代行について	議長により前田委員が議長の職務代行に指名され全会一致で承認	
議題2	(審議事項)	学長の業務執行状況の確認に関する申合せの改正について	原案のとおり承認	
議題3	(審議事項)	学長の業務執行状況の確認について	原案のとおり承認	<p>○事業年度に係る業務の実績に関する報告書がなくなったが、所信表明と監事監査報告書のみでは不足すると思われるので、学長の業務執行状況の報告資料等も評価の根拠資料とする必要があるのではないか。 →学長の業務執行状況の確認に関する申合せにおいて、学長による業務執行状況の報告のほか、所信表明書及び監事監査報告書を参考資料として確認を行うことと規定されているため、学長の報告内容・資料も評価の根拠としていただいて差し支えない。</p> <p>○従前は文科省の報告書により確認することができたKPIや実施できなかったことがわかる資料を提示してもらえると、公平な評価に繋がられるのでは。</p> <p>※学長の業務執行状況の報告に対する学内委員および監事からのコメントは別紙のとおり</p>

議題3 学長の業務執行状況の確認についての主な意見（学内委員および監事）

各委員からの意見、意見交換は以下の通り

- （学内委員）

非常に精力的に動かれている。まだ就任後1年であり、既に成果が出ているものと、これから出るものがあるが、期待している。

目に見えた変化としては本部制になり意思決定や変更修正が早くなった。

外部資金は初年度から成果が出ており、大学が益々潤っていくのではないかと期待している。
- （学内委員）

研究、教育、管理運営、社会貢献がそれぞれ本部制により自立した組織に執行されることにより学長が全てを把握する必要がなくなり、学長が認証評価や学内外の要人とのコネクションの醸成等の本来の学長の業務に時間を使うことができるようになり、第4期の計画が滞りなく実行できると感じている。
- （学内委員）

現場の実感として女子学生が増え、大学全体の雰囲気も変わってきている中で、ハラスメント対策や女子学生に対してどういうアプローチを取るのかというのは目に見えた課題であると実感している。その意味で、学長直下の組織であるコンプライアンス室ができ、心強い組織ができたと感じている。
- （監事）

自己点検評価の公表について。学校教育法の定めのとおり、教育研究水準の向上が大学・学長の業務であり、そのために自己点検・評価を行い公表する。方法は大学次第であり、法人評価が廃止となって初めての実施となるが、九工大は学長方針等で点検して公表する形を取る。誰に対して公表するか、どう実施するかが重要であり、経営協議会委員から多様な意見が出て非常に良かった。

また、トップの考え方がどのように教職員に伝わっていくか、伝え方が重要である。サポートする教職員に対し、最終的に学生をどのように教育研究、人材育成していくかというところまで浸透させる強さが必要。更にハラスメントのない大学にしていくため、皆がプライドを持って働ける環境にするためにどうすればいいかが原点にある。三谷学長の頑張りに対し、振り落とされる人が出てこないよう理事や副学長のサポートが重要となる。
- （監事）

九工大は色々な取組を行っているにも関わらず、伝わる発信ができていないことが一番の課題。メディアにも出ているのに、保護者にも伝わっていない。北九州になくてはならない大学であってほしいので、学内外に十分な情報発信をしていただきたい。